

令和4年度 社会福祉法人緑仙会事業報告

令和4年度は、緑仙会第四次中期経営計画及びウインディ広瀬川、パルいずみ、パル三居沢の指定管理の初年度となった。第四次中期経営計画は、障害者福祉を取り巻く近年の環境変化や当法人の現状と課題を踏まえ、「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包括性のある社会の実現」に向けた SDGsの理念も包含したものとして策定した。事業に関しては、前年度から引き続き COVID-19 の感染予防対策に努めながら、確実な事業実施を推進した。また、令和4年度から施行した虐待防止対応規程に基づき、虐待防止委員会を開催し、利用者の人権擁護に努めた。加えて、育児・介護休業法及び労働基準法の改正に合わせた諸規程の改正による職員の福利厚生の向上、働き方改革及び勤怠管理システムの導入に取組んだ。

I 令和4年度指定管理業務、障害者相談支援事業の実施

令和4年度指定管理業務及び障害者相談支援事業ともに、引き続き COVID-19 の影響があったものの、法人内各事業所における感染対策を徹底し、医療機関等と対応を協議しながら利用者の受入れや教育機関からの実習生受入れを進めた。

ウインディ広瀬川では、基本的な感染対策を徹底しながら、外出機会の創出や外部講師による講話など、プログラムの見直しを図りながら事業を展開した。

パルいずみ、パル三居沢における生産活動について、パルいずみにおいては下請作業における収入は例年並みの水準であったが、令和3年度に受注した単価の高い作業依頼がなかつたことや自主製品販売機会の減少などの要因により前年度実績を下回った。パル三居沢では、新規の受注先の確保や自主製品の販売が伸びたことにより前年度実績を上回った。

指定管理施設におけるレクリエーションに関し、県内の感染状況に留意しながら適切な実施に努め、日帰りバス旅行など COVID-19 流行前に実施していた行事を一部再開した。

ほっとすペーすの障害者相談支援事業（仙台市からの委託相談支援）については、延べ支援件数が前年度比8.4%の増加となった。入院から退院に向けた支援、計画相談支援利用者のいすれも前年度に比べ増加した。青葉区自立支援協議会の事務局として毎月の運営会議に参加した他、地域展開チームを担当し、健康増進と地域のつどいの場を作ることを目的に貝ヶ森中央公園での「ふらっと寄りみち軽体操」を年3回実施するとともに、貝ヶ森市民センターにおける「貝ヶ森地区文化祭」に出展し、障害福祉や青葉区障害者自立支援協議会の普及啓発に努めた。

2 COVID-19の対応等

感染予防対策は、前年度と同様に利用者、職員とともに、マスクの着用、手洗い、消毒、検温、体調確認、換気、三密の回避などを徹底した。

ウインディ広瀬川では、宿泊型施設であることから年度前半に利用者のPCR検査を定期的に行なった他、全事業所において職員の抗原検査を実施した。結果、利用者の感染を防止することができた。

また、前年度に引き続きオンラインの活用を図り、ウインディ広瀬川における利用開始前のケア会議を Zoom で行うなど工夫した他、研修や会議についても感染状況に応じて Zoom 等で

の参加を行った。

3 中期経営計画の取組み

第四次中期経営計画の初年度として、管理者会議や管理者・係長合同会議で進捗状況の共有や課題解決に向けた検討を行いながら、成果指標の達成に向けて取り組んだ。

4 虐待防止対応について

令和4年度に施行した虐待防止対応規程に基づき、利用者の権利擁護に努めるとともに、虐待防止に関する研修会を2回開催し、利用者の視点に立った関わりや人権の尊重に対する意識を深め、虐待が起こらない環境づくりを促進した。

5 諸規定の改正等

令和5年3月23日に開催された第4回定例理事会において、休暇取得方法の変更に関する「職員就業規則」の改正、育児・介護休業法改正に伴う「育児休業、介護休業等に関する規程」の改正を行った。

6 施設関係

パル三居沢では、雨漏り防止のための屋根全面の防水工事が行われた。

ワインディ広瀬川では、令和7年度に予定されている仙台市公共施設長寿命化工事に向け、修繕に関する意向調査及び現地確認が行われ、概ね希望に基づく修繕工事が行われることになった。

6 職員の健康管理

職員の健康診断を行うとともに、宮城県産業保健支援センターの協力を得て、健康診断結果に基づく職員個々の健康指導を実施し、職員の良好な健康管理に努めた。

第四次中期経営計画に基づく令和4年度事業実行状況の概要は次ページ以降の通り。

令和4年度実績と第4次中期経営計画成果指標達成率等

I 精神障害者支援の推進

1、自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練事業(ワインディ広瀬川 定員20名)

※()内は前年度の数値

実施項目		成果指標	実績	達成度
入院からの自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練事業新規利用者数		6人	2人 (4人)	33%
体験利用の期間を柔軟に設定する等、スムーズな利用が図られるよう対応したが、病院側のCOVID-19対策による体験利用の減少、体験利用予定者の体調不良等により、令和4年度中の利用開始に至らないケースが複数あり、標記実績値となった。				
生活訓練から地域生活への移行者数(ワインディ広瀬川)		8人	6人 (4人)	75%
単身自立2名、グループホーム2名、家庭等2名が地域生活へ移行した。また、生活保護受給、訪問看護の利用調整等の支援を併せて行うとともに、就労継続支援事業所等の紹介も行い、生活の自立に向けた取組みを行った。なお、退所後3か月のアフターフォローを実施し地域生活定着支援を行っている。				
ワインディ 広瀬川	自立訓練(生活訓練)	1日平均利用者数	14人	10人 (9.9人)
	宿泊型自立訓練	1日平均利用者数	14人	10人 (9.8人)
入院からの受入をはじめ、利用者数の増に向け、関係機関への空室情報の提供や、医療機関からの利用のしやすさなどを含めたアンケートを実施する等して、新規利用者増に向けた取組みを行っているが、成果に結びついておらず、令和5年度においても引き続き、プログラムの充実にも取組むなどして、PR活動を行うこととしている。				
短期入所事業延べ利用者数(ワインディ広瀬川)		630人	393人 (426人)	62%
本人・家族の休息を目的としたショートステイ事業を実施。COVID-19に起因する利用者からのキャンセルもあり、昨年度実績を若干下回った。				

2、就労移行支援事業(パルいすみ 定員6名)

実施項目		成果指標	実績	達成度
就労移行支援事業による一般就労者数		1人	0人 (1人)	0%
3名が利用しており、3名とも令和5年度での就労に向けた支援を進めている。				
就職後の職場定着のために支援した人数		6人	4人 (2人)	66%
令和元年度及び令和3年度就労者等を中心、定期面接、体調確認、企業との情報交換等を行った。				
就労移行支援事業 の利用者数	パルいすみ 定員6名	1日平均利用者 数	4人	2.6人 (1.2人)
		延べ利用者数	960人	626人 (280人)
成果指標の数値の達成までは至らなかったものの、前年度に比して増員が図られた。				

3、就労継続支援B型事業(パルいすみ 定員24名 パル三居沢 定員20名)

実施項目		成果指標		実績	達成度
就労継続支援B型事業の利用者数	パルいすみ 定員24名	1日平均利用者数	16人	10.9人 (11.3人)	68%
		延べ利用者数	3,840人	2,650人 (2,715人)	69%
	パル三居沢 定員20名	1日平均利用者数	16人	8.4人 (9.7人)	53%
		延べ利用者数	3,840人	2,052人 (2,347人)	53%
利用者一人ひとりが安心して通所し、自らの目標に向けて活動できるよう支援を行った。しかし、心身の不調のため通所が難しい利用者も多く利用日数は伸び悩んだ。					
就労継続支援B型事業の工賃	パルいすみ	平均月額	12,000円	9,865円 (12,829円)	82%
	パル三居沢	平均月額	10,500円	11,289円 (8,906円)	108%
パルいすみは、受託事業作業収入はほぼ例年並みとなったが、自主製品の販売会がCOVID-19の影響により回数が限られたことから、例年を下回る結果となった。一方パル三居沢は、新規の作業収入、自主製品のラッピングなどの工夫等により売り上げを伸ばしたことが結果につながった。					

4、障害者相談支援事業(ほっとスペーす)

実施項目		成果指標		実績	達成度
相談支援事業延べ利用件数		4,000件		5,914件 (5,458件)	148%
239名が委託相談支援を利用し、うち34名が新規利用。243回の訪問、49回の面接、78回の同行支援を実施。また、個別支援会議を711回、関係機関との連絡調整を1,511回、その他電話相談等の支援と合わせると延べ5,914件の支援を行った。					
相談支援事業における入院から退院に向けた支援の利用件数		60件	50件 (45件)	83%	
区障害高齢課や精神科病院等と連携し、退院に向けたケア会議やサービスの調整等の支援を行い、19名の利用者が退院した。 COVID-19の影響から本人との面会やケア会議等はリモートで行うこともあった。					
仙台市の各種協議会等への参加回数		25回	52回 (47回)	208%	
サポネットあおば(青葉区自立支援協議会)の事務局として毎月の運営会議に参加するとともに、サポネットあおばの会議体である地域展開チームを担当し、健康増進と地域のつどいの場を作ることを目的に、貝ヶ森中央公園にて「貝ヶ森だヨ!全員集合 ふらっと寄りみち軽体操」を5月、8月、11月の年3回実施した。また、10月には貝ヶ森市民センターで開催された「貝ヶ森地区文化祭」に出展し、障害福祉やサポネットあおばに関する普及啓発に努めた。					
計画相談利用実人員		100人	84人 (71人)	84%	
新規の計画相談で8名を支援。就労移行支援、就労継続支援B型、宿泊型自立訓練、共同生活援助、居宅介護のサービスにそれぞれ繋げている。					

II 公益的取り組みの実施

実施項目	内 容		
地域的取り組み、各種団体との連携事業等	<p>(ワインディ広瀬川・パル三居沢・ほっとスペーす)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズの把握のため、国見地域包括支援センターを訪問の他、民生委員の方との話し合いを実施した。 ・サポネットあおば地域展開チームが実施する「ふらっと寄りみち軽体操」及び「貝ヶ森地区文化祭」へ参加し啓発活動を行った。 ・国見地域包括支援センター主催八幡地区包括圏域会議に出席。災害時の対応や地域連携について話し合いを行った。 <p>(ワインディ広瀬川・パル三居沢)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青葉区障害者自立支援協議会の実務者ネットワーク会議(サポネットあおばのつどい)に参加。 (パルいずみ) <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員協議会と精神障害に関する理解促進のための研修について打合せ実施。 ・市民に対して精神障害に関する理解促進のための講座内容の検討。 ・地域医療福祉連携の世話人会への出席、全体会の運営実施。 ・高森地域包括支援センターへの訪問実施。 ・高森東地域の集まりで講演会(事業所紹介、高齢者うつについての講話とラフターヨガ体験)実施。 ・泉区障害者自立支援協議会の実務者ネットワーク会議(よめごと会議)に参加。 		
実習生の受け入れ	精神保健福祉援助実習	22人	仙台市内の教育機関、県外の通信教育機関に対し実習生受け入れについて案内した結果、新たな教育機関からも実習生を受け入れることができた。また、令和3年度に引き続き、大学と事業所をSNSで結び、利用者との模擬面接を実施した。
	精神看護実習	132人	
	介護等体験実習	3人	
	計	157人	

III 法人運営の強化

I、健全な財務規律の確立

給付費(障害福祉サービス費:仙台市収入)		成果指標	実 績	達成度
ワインディ広瀬川	自立訓練(生活訓練)	26,700千円	19,762千円 (19,666千円)	74%
	宿泊型自立訓練(定員20名)	23,000千円	19,040千円 (20,715千円)	83%
	短期入所(3名)	5,500千円	3,369千円 (3,600千円)	61%
パルいずみ	就労移行支援(定員6名)	5,100千円	3,424千円 (1,547千円)	67%
	就労継続支援B型(定員24名)	20,700千円	15,210千円 (15,444千円)	73%
パル三居沢	就労継続支援B型(定員20名)	22,300千円	12,521千円 (14,307千円)	56%

指定管理事業として行う障害福祉サービス事業に対する給付費で、現在は、仙台市の収入として処理されている。給付費は、障害福祉サービス事業所の人件費を含む運営費の主な財源となる。

当法人においても、第四次中期経営計画において、この点を踏まえ事業運営にあたることとしており、今後のさらなる取組強化が求められている。

2.人材の育成

実施項目	
法人職員研修の実施	
【法人内職員全体研修】 <ul style="list-style-type: none">・令和4年 4月22日:「緑仙会個人情報保護規程/虐待防止対応規程について」「令和4年度緑仙会重点事業について～中期経営計画・指定管理期間中の新たな提案の実現に向けて」・令和4年 8月26日:虐待防止研修会/利用者のプライドとどう付き合うか・令和4年10月28日:「支援者としてのチェックリスト」・令和5年 3月28日:「令和5年度事業計画」、「職員就業規則等の改正」、「安全対策、広報委員会報告」等・ほっとすペーす、ワインディ広瀬川において従来より行っていたケース検討会に、他事業所でもZoom等で参加 <p>このほか、仙台女性リーダトレーニングプログラムマネージャーコース、会計担当者研修に参加、また、仙台市職員研修所が行う「初任係長研修」等に参加した。さらに、各事業所において外部研修等に参加し、人材育成に取組んだ。</p>	
人事評価の実施	<ul style="list-style-type: none">・職員評価表による自己評価、管理職による評価・自己申告書に基づく職員の意向把握
「私たちの行動基準」の具体化	私たちの行動基準に基づき、職員それぞれが毎月の行動目標を定め、振り返りを行ながら、行動基準の具体化を図った。

3.リスクマネジメントの推進等

実施項目	
情報公開の充実	法人会報を発行(令和4年7月、令和5年1月)し、財務状況、各事業所の活動報告を行った。また、ホームページにおいても、財務状況を公表するとともに、個人情報保護規程、ハラスマント防止指針、虐待防止対応規程を掲載している。 さらに、ホームページブログを週1回更新し、日々の活動内容等を発信している。
虐待防止の取組	<ul style="list-style-type: none">・虐待防止に関する研修の実施(再掲)・各事業所において、虐待防止チェックリストをもちいて、毎月職員全体で確認
BCP(事業継続計画)の取組	令和4年度におけるCOVID-19対策については、令和3年度に引き続き、体温、体調チェック、必要に応じた抗原検査の実施、換気や拭き掃除の徹底などを行った。その結果、利用者の感染は0であった。なお、職員にあっては、子どもからの感染を中心に罹患するものがいたが、業務への影響は最小限にとどめることができた。 また、大規模災害(震災、風水害)時のBCPについては、令和5年度策定に向け検討を進めた。
個人情報保護の取組	年度当初に法人研修を実施したほか、仙台市主催の研修に参加、また、日常的には安全対策委員会におけるウイルスチェックなどにより、情報の外部漏洩の防止に努めた。
防災訓練・消防訓練の実施	令和5年2月20日、法人全体の防災訓練を実施。訓練は、地震規模だけを示し、その対応シナリオを作成せず、その時点における職員対応を検証することを目的に実施した。また、各事業所においても、消防計画に基づく消防訓練を実施した。

IV. 評議員会及び理事会の開催状況

(1) 評議員会

開催日	内 容
定時評議員会 令和4年6月23日	<p>議 案</p> <p>第1号議案 令和3年度計算書類(貸借対照表及び収支計算書) 及び財産目録の承認について</p> <p>第2号議案 理事の選任について</p> <p>報告</p> <p>第1号報告 令和3年度事業報告について</p> <p>第2号報告 評議員選任結果について</p> <p>その他</p> <p>(1) 第4次中期経営計画について</p> <p>(2) 令和4年度事業計画について</p> <p>(3) 令和4年度収支予算書について</p>

(2) 理事会

開催日	内 容
第1回定時理事会 令和4年6月8日	<p>議 案</p> <p>第1号議案 令和3年度事業報告及び決算の承認について</p> <p>第2号議案 令和4年度補正予算の承認について</p> <p>第3号議案 評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項について</p> <p>第4号議案 評議員候補者の選定について</p> <p>第5号議案 評議員選任・解任委員の選任について</p> <p>第6号議案 評議員選任・解任委員会の開催について</p> <p>報告</p> <p>第1号報告 理事長の職務執行状況について</p> <p>第2号報告 常務理事の職務執行状況について</p>
第2回定時理事会 令和4年9月14日	<p>議 案</p> <p>第1号議案 令和4年度補正予算の承認について</p> <p>第2号議案 社会福祉法人緑仙会「私たちの行動基準」の一部改正について</p> <p>第3号議案 社会福祉法人緑仙会アルバイト職員就業規則の一部を改正について</p> <p>報告</p> <p>第1号報告 令和4年度指定障害福祉サービス事業所等実地指導監査の結果について</p> <p>第2号報告 理事長の職務執行状況について</p> <p>第3号報告 常務理事の職務執行状況について</p>
第3回定時理事会 令和4年12月14日	<p>議 案</p> <p>第1号議案 令和4年度補正予算の承認について</p> <p>第2号議案 「適格請求書発行事業者」登録申請について</p> <p>報告</p> <p>第1号報告 理事長の職務執行状況について</p> <p>第2号報告 常務理事の職務執行状況について</p>

第4回定期理事会 令和5年3月23日	議 案 第1号議案 令和4年度補正予算の承認について 第2号議案 令和5年度事業計画の承認について 第3号議案 令和5年度収支予算の承認について 第4号議案 職員就業規則の一部改正について 第5号議案 育児休業、介護休業に関する規程の一部改正について 第6号議案 職員給与規程の一部改正について 第7号議案 指定障害福祉サービス事業運営規程の一部改正について 第8号議案 短期入所事業運営規程の一部改正について 第9号議案 管理職の人事について 報 告 第1号報告 理事長の職務執行状況について 第2号報告 常務理事の職務執行状況について
-----------------------	---

V. 苦情及び虐待防止関係

苦情及び虐待に関する申出はなかった

VI. 人事関係

(1) 職員採用状況

職員1名採用 ウインディ広瀬川に令和5年4月1日配属

(2) 表彰関係

厚生労働大臣表彰

伊藤 敏江

全国社会福祉協議会会长表彰

高梨 直樹

菅原 めぐみ

宮城県社会福祉協議会会长表彰

加藤 朝菜

仙台保護観察所長感謝状

ほっとスペーす

(3) 安全衛生関係

職員全員の健康診断を実施したほか、各事業所において外部保健師による健康診断の事後指導を実施した。

VII. 管理者会議並びに管理者・係長合同会議

毎月1回実施、法人の経営政策及び事業経営に係る企画、各事業所の運営課題の検討や情報交換等を行った。

令和4年度 自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練事業所 ウインディ広瀬川事業報告

利用者一人ひとりの生活課題や障害特性に応じた生活訓練を実施しながら、本人が希望する地域生活への移行を支援した。また、本人のストレングスを活かし、主体的な生活意欲を引き出すことにより、生活訓練の成果が上がるよう支援した。

新規利用者の受け入れについては、病院のCOVID-19 対策に合わせつつ、事業所でも感染対策を行ったうえで受け入れに向けた取組みを進めた。利用開始前のケア会議をオンラインで行うなどの工夫を行なながら、5名の利用者を受け入れた。

短期入所事業については、利用者や家族のニーズに合わせ柔軟な支援や環境整備等を行ないながら利用率の向上を図り、利用者数は目標の6割程度だったが、徐々に利用率を上げることができた。

I 事業内容

1. 自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練事業

入院中の精神障害者に対する新規利用の促進を目的に、入所に向けた体験利用を4名に対し延べ4日実施し、うち2名が入所につながった。1日平均利用者数は、両事業平均で10名となり、昨年度よりも若干増加に転じた。

（1）生活訓練

自立した生活ができるよう、個々の利用者の特性に応じた、生活訓練プログラムを提供した。COVID-19 対策による外出自粛に伴い、事業所内でのプログラムを工夫して実施した。利用者アンケート結果に基づき、利用者の希望に合わせ、外出プログラムの際はグループに分かれて少人数で移動する等の工夫をしながら対応した。

集団プログラム	項目	内 容	() は頻度または実施回数
	生活技術	館内清掃（毎日） 調理実習（週1回） 快適生活講座（月2回程度）※別表参照	
	外出訓練	公共交通機関を使用した外出（年4回）	
	健康維持	ラジオ体操（毎日）、スポーツ（週1回） ニューススポーツ（月1回） 感染症や生活習慣病等に関する講話（年1回程度）	
	教育・学習	ポジティブワーク（月1～2回）	
	余暇支援	園芸プログラム（週1回程度） お菓子作り、ランチ会、バーベキュー（月1回程度） 季節の行事（年6回） ・お花見（4月）　　・バス旅行（10月） ・七夕まつり（8月）　・クリスマス会（12月） ・芋煮会（9月）　　・豆まき（2月）	
	社会参加	アレマ隊（広瀬川河畔の清掃活動）（月1回程度）	
	対人交流	コミュニケーション教室（月1回）	

個別支援プログラム	掃除・整頓、清潔保持、調理、通院支援、買物支援、制度利用支援、体調管理、服薬管理、金銭管理、余暇支援、対人関係についての支援を実施
-----------	---

別表：快適生活講座は以下の内容で実施した。

月	内 容	月	内 容
4月	節電節水・ごみの分別、掃除	10月	メタボリックシンドローム、悪徳商法
5月	余暇の過ごし方、衣替え	11月	感染症、生活リズム、冬場の服装
6月	熱中症、お金の使い方	12月	制度やサービス、お金の使い方
7月	お菓子・飲み物、生活習慣病	1月	相談支援事業所、就労支援事業所
8月	入浴・体の洗い方、歯の健康	2月	食事・栄養バランス、食品保存方法
9月	整理・整頓、洗濯	3月	身だしなみ

(2) 宿泊訓練

個別支援計画に基づき、以下のとおり利用者の特性に合わせて支援した。

①就寝・起床、食事、入浴等の生活リズムの確立

規則正しい生活が身につくよう、就寝、起床、入浴、食事準備の際に声掛けや見守りの支援を行った。生活リズムを整えるため、プログラムに休まず参加することや、疲れを溜めないような生活に向けた助言をしたり、毎月の振り返りの中で血圧・体重測定などを実施した。

②整容、洗濯、居室整理、ゴミ分別・ゴミ出し等衛生面の習得

洗濯物の量を確認して適切な頻度で洗濯に取り組めるよう助言、指導を行った。

利用者全員の居室を月1回点検し、必要に応じて助言、指導を行った。

浴室やトイレの清掃は、利用者1名につき月3～4回程度行えるように当番制で実施した。

③服薬管理

利用者の意向を尊重し、希望者には事務室での管理を行いながら、またそれぞれの利用者の特徴に合わせてステップアップをしながら自己管理に向けた訓練を行なった。

④金銭管理

予算内での管理が難しい、計画を立てるのが苦手等、個々の利用者の特徴や状況に合わせて訓練を行った。家族や関係機関からもアセスメントを行ないながら、効果的な訓練を提供できるよう配慮した。

(3) 地域生活への移行支援

地域生活への移行者数は、中期経営計画の目標8名に対して、6名となった。

①家族・関係機関との意見調整

本人を中心に、家族、医療機関、相談支援事業所、保健福祉センター、グループホーム等の関係機関と十分な意見調整を行いながら、地域生活への移行を支援した。

利用中の目標確認、退所に向けた準備等を目的としたケア会議を開催したほか、随時サービス担当者会議に参加し退所後の生活についての検討を行った。

②退所先住居の確保

利用者の希望に沿って、アパートやグループホームの見学、受け入れ先との情報共有、申請手続き等の支援を行った。必要に応じて体験利用の調整や送迎の支援も行った。結果、1名の利用者がアパートでの単身生活、2名の利用者がグループホームへ移行した。

③生活保護等の相談・申請

生活保護申請に向けて、区役所への相談支援を実施。利用中の生活保護受給に繋がった。

④必要な在宅福祉サービスの導入

福祉サービスの導入は無かったが、訪問看護の利用調整を行ない、利用開始に繋がった。

⑤地域生活における日中活動等へ向けた取組（利用者2名）

本人の希望とともに、就労継続支援A型事業所及びB型事業所、就労移行支援事業所、デイケアの見学、体験利用実施等の支援を行った。その結果、地域移行後に事業所への通所を開始した。

(4) 面接相談

①随時面接

精神的不調の訴えや、生活上の困りごと、職員からの随時の助言指導などを含め、状況に応じた生活課題に関する面接を行った。

②定期面接

全ての利用者に対して、1か月に1回以上の面接を行った。

③家族面接

家族の相談への対応や本人の状況報告、事業所の取組み説明等のため利用者10名の家族に実施した。

(5) 健康管理

①仙台市が実施する各種健診の情報提供、受診同行、受診後の助言

仙台市市民健診の周知を行い、各種健診の受診勧奨を行なった。また精神科に限らず、内科や皮膚科などの受診同行を行ない利用者の健康管理のサポートを行なった。

②体重及びバイタルチェック

利用者全員に月1回実施し、必要に応じて助言指導を行った。

③健康教育

COVID-19 対策について、常時呼び掛け、助言指導を行った。

7月に生活習慣病の予防について、10月にメタボリックシンドロームについて、11月に感染症についての講話を実施した。

8月に歯科衛生士を招いて、歯の健康についての講話と正しい歯磨きの方法を実践で学ぶ機会を設けた。

利用者から体調不良の訴えを受けた際は、状況に応じて受診勧奨や通院同行を行った。

(6) 退所者へのアフターケア

①訪問サービス

7名の利用者が退所した。退所者のうち、アパートでの単身生活1名とグループホーム入居2名に対して、3か月間のアフターケアを実施した。必要に応じて通所事業所の見学同行、通院同行、障害支援区分調査の同席を行なったり、関係機関と情報共有し、本人との関係作りや円滑な地域移行のため丁寧な引継ぎを行った。また、地域の単身生活者に対する訪問支援を11回実施した。

②電話相談、面接相談

随時実施した。

③関係機関との連絡調整

随時実施した。

(7) 実習生の受入れ・指導

東北福祉大学より4名、東北文化学園大学より1名の計5名を受け入れた。仙台徳洲看護専門学校の精神看護学実習については、職員が学校に出向き事業所説明を行った。

(8) 仙台市の協議会への参加

7月、1月に青葉区障害者自立支援協議会「サポネットあおばのつどい」に参加した。

サポネットあおば地域展開チームが実施する「ふらっと寄りみち軽体操」及び「貝ヶ森地区文化祭」に参加した。

2. 短期入所（ショートステイ）事業

本人、家族の休息を目的に、COVID-19 対策を取りながらショートステイ事業を行った。中期経営計画目標の延べ利用者数630名に対して、393名の利用があった。

3. 地域移行支援事業における体験宿泊支援、地域定着支援事業における一時滞在支援

本年度における利用実績はなかった。

〔第1号議案説明附属資料〕

II. 事業実績

(令和5年3月31日現在)

表-1. 利用者状況

(人)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
利 用 者	宿泊型自立訓練	開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
		利用者実人数	11	11	11	11	11	11	12	11	12	11	11	9	-
		延べ利用者数	280	281	299	309	322	294	333	315	316	336	292	274	3,651
		1日平均利用者数	9.3	9.1	10.0	10.0	10.4	9.8	10.7	10.5	10.2	10.8	10.4	8.8	10.0
		利用率(%)	47	45	50	50	52	49	54	53	51	54	52	44	50
	自立訓練(生活訓練)	開所日数(日)	21	18	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243
		利用者実人数	11	11	11	11	11	11	12	11	12	11	11	9	-
		延べ利用者数	187	173	219	197	228	198	219	209	204	206	197	195	2,432
		1日平均利用者数	8.9	9.6	10.0	9.9	10.4	9.9	11.0	10.5	10.2	10.8	10.4	8.9	10.0
		利用率(%)	45	48	50	49	52	50	55	52	51	54	52	44	50
当月在籍者数(定員20名)		11	11	11	10	10	11	11	11	11	11	9	9	-	
新規利用者数		0	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	5	
退所者数		1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	2	0	7	
体験利用者	利用者数	0	1	1(1)	1(1)	1	0	2(1)	0	0	0	2(1)	1(1)	4	
	延べ利用者数	0	1	2	2	5	0	18	0	0	0	5	8	41	

※1 利用率: 延べ利用者数 ÷ (定員 × 開所日数) × 100

※2 再掲:()内の体験利用者は、前月もしくはそれ以前の利用者と同一人物

※3 中期経営計画目標: 14人

表-2. 短期入所(ショートステイ)利用状況

(人)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数(日)		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用者実人数		8	6	5	8	8	9	7	7	7	7	10	9	-
延べ利用者数		36	20	21	28	35	47	41	29	34	30	35	37	393
1日平均利用者数		1.2	0.6	0.7	0.9	1.1	1.6	1.3	1.0	1.1	1.0	1.3	1.2	1.1
利用率(%)		40	22	23	30	38	52	44	32	37	32	42	40	36

※1 延べ利用者数: 中期経営計画目標 630人/年

※2 利用率: 延べ利用者数 ÷ (定員3名 × 開所日数) × 100

表-3. 地域移行支援 体験宿泊利用者状況

(人)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ利用者		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※再掲:()内の体験宿泊利用者は、前月もしくはそれ以前の利用者と同一人物

〔第1号議案説明附属資料〕

表-4-(1). 新規利用者の利用前の状況 (人)

	入院	在宅	施設入所	計
男性	0	2	1	3
女性	1	1	0	2
計	1	3	0	5

中期経営計画目標:入院からの利用6人/年

表-4-(2). 新規利用者の紹介元 (人)

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	相談支援事業所	福祉サービス事業所	その他	計
男性	0	0	0	2	1	0	0	3
女性	0	0	0	1	1	0	0	2
計	0	0	0	3	2	0	0	5

表-5. 退所者転帰 (人)

	地域生活への移行			再入院	他施設移行	その他	計
	単身自立	グループホーム	家庭復帰				
男性	2	1	0	1	0	0	4
女性	0	1	1	0	0	1	3
計	2	2	1	1	0	1	7

中期経営計画目標:地域生活への移行8人/年

表-6. 退所者の利用期間 <平均利用期間 1年3か月> (人)

期間	人数	内訳
6か月未満	1	その他
6か月～1年未満	2	家庭復帰、再入院
1年～2年未満	1	単身自立
2年～3年未満	3	グループホーム2、単身自立
計	7	

表-7. 利用者所轄保健福祉センター (人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	計
男性	3	1	0	2	1	7
女性	1	0	0	0	1	2
計	4	1	0	2	2	9

表-8. 平均年齢 (歳)

	男性	女性	全体
平均	39.4	46.0	40.9

表-9. 「主たる精神障害」による区分 (人)

診断名	男性	女性	計
統合失調症	4	2	6
双極性障害	2	0	2
鬱病	1	0	1
計	7	2	9

表-10. 障害者手帳取得状況 (人)

	人 数	備 考
精神障害者保健福祉手帳1級	0	
精神障害者保健福祉手帳2級	8	
精神障害者保健福祉手帳3級	0	
その他の手帳	1	
未取得	0	
計	9	

令和4年度 就労移行支援事業所 パルいづみ事業報告

利用者の就労に向け、個々の状態や状況に応じた就労プログラムを実施した。就労体験実習などの事業所外プログラムの提供とともに、併設する就労継続支援B型サービスを活用し、きめ細かな就労支援の充実に努めた。また、就職者の職場定着に向けた取組を積極的に行い、就労の継続を図った。

1. 事業内容

(1) 就労支援

3名の就労支援を行った。令和5年度での就職に向けて支援を進めており、本年度で就職に繋がった者はいなかった。(中期経営計画目標：1名)

①就労プログラムの実施

事業所内外において、下表のとおりプログラムを実施した。

なお、プログラムの実施にあたってはハローワーク仙台での求人検索等のほか、仙台市障害者就労支援センターと連携し、就労体験実習を実施した。

	プログラム	内 容	実施状況
事業所内	基礎訓練	①活動記録表	通所時
		②文字の書き取り・漢字の読み書き	個別対応
		③計算問題	個別対応
		④パソコン入力（Word 12コース Excel 6コース、ナビゲーションブック作成）	個別対応
	講義 (就労支援シート)	■ステップ1 ○就労に向けた動機づけ	7回
		①働く目的	
		②働くための準備	
		③自分に合った仕事を見つける	
		④障害開示・非開示	
		⑤雇用形態（一般雇用・障害者雇用）	
		⑥社会資源	
	■ステップ2 ○就労に関わる法律	⑦ステップ1のまとめ	7回
		■ステップ2 ○就労に関わる法律	
		①労働基準法	
		②パートタイム労働法	
		③最低賃金法	
		④医療保険（健康保険・国民健康保険）	
		⑤労働保険（労災保険・雇用保険）	
	■ステップ3 ○就労に必要なビジネスマナー	⑥年金（国民年金・厚生年金）	10回
		⑦ステップ2のまとめ	
		■ステップ3 ○就労に必要なビジネスマナー	
		①第一印象を磨く	
	②身だしなみ、姿勢、お辞儀	②身だしなみ、姿勢、お辞儀	10回
		③コミュニケーション	

[第1号議案説明附属資料]

		④敬語、名刺交換 ⑤席次 ⑥話すスピードのトレーニング ⑦電話対応 ⑧履歴書の書き方 ⑨面接（講義編） ⑩面接（実践編）	
事業所外	販売訓練	区役所	1回
	ハローワーク	求職者登録、求人検索	6回
	職場見学	①プルデンシャル生命保険株式会社 ②株式会社デジタルハーツプラス ③サトー商会	1回 1回 1回
	就労体験実習	①文化観光局スポーツ振興課（泉総合運動場） ②文化観光局スポーツ振興課（北中山コミュニティグランド）	1回 1回

②ハローワーク仙台・仙台市障害者就労支援センター・宮城障害者職業センター等との連携
仙台市障害者就労支援センターと連携し、2か所で就労体験実習を実施した。

③就労後の職場定着支援

障害者雇用及び一般アルバイトの利用者4名を対象に実施した。（中期経営計画目標：6名）
令和元年度に就労した1名は、3ヶ月ごとに定期連絡があり、勤務状況や体調確認を行っている。令和3年度に就労した1名は、勤務日の体調確認や企業との連携を密に行いサポートを継続している。下記の2名のほかに、2名に連絡し近況の確認を行った。

No.	採用年月	性別	年齢	利用期間	現在の勤務状況	支援状況
1	R 2. 2	男	49	1年2か月	継続勤務中（3年1か月）	本人より定期連絡
2	R 3. 9	男	31	2年6か月	継続勤務中（1年7か月）	勤務日に対応

(2) 作業訓練（下請作業・自主製品）

多機能型事業所としてB型事業の生産活動参加の他、販売会参加や企業への納品時に同行する等、役割意識を持って作業に取り組めるよう支援した。

(3) 相談支援

①定期面接

3ヶ月ごとに定期的に実施し、課題に対する振り返り・個別支援計画の評価・見直しを行った。

②随時面接

利用者の申し出による面接では、課題の整理を行い、生活状況の改善や不安の軽減に向けた助言等を行った。また、職員からの声掛けにより面接を実施し、課題解決や目標達成に向けた働きかけを行った。

(4) 健康管理

①各区で実施する各種健診の情報提供

仙台市市民健診の受診勧奨を行い、受診した利用者からの結果報告を受け、必要な助言・指導を行った。

②軽運動（ラジオ体操・ストレッチ）の実施

毎日、朝のミーティング開始前の深呼吸及びストレッチ、作業開始前のラジオ体操と終了時のストレッチを実施した。作業時間中盤の体操も継続しており、身体を動かす機会づくりに意識的に取り組んでいる。

③健康維持に向けた助言等の支援の実施

季節や時期に応じて、ミーティングや個別対応により健康管理や維持に向けた働きかけを行った。

④定期的な体重・血圧・脈の測定（自己管理意識の向上）

利用者との定期面接（1か月に1回程度）の機会に測定し、働きかけを行った。

(5) 余暇支援（行事・レクリエーション）

①利用者同士の交流を目的とした季節ごとの行事実施

②食事会実施

ランチ	5月	ビビンバ	10月	栗おこわ、はっと汁
	6月	生姜焼き定食	11月	おでん、わかめご飯
	8月	カレーライス	12月	ビーフストロガノフ
	9月	芋煮、炊き込みご飯	2月	あんかけ焼きそば
レクリエーション	4月	ゲーム、食事会	10月	バス旅行（登米方面）
	7月	映画鑑賞、食事会	1月	ゲーム、お餅メニュー

(6) 実習生の受入れ・指導等

実習種別	学校名	人数
精神保健福祉援助実習	仙台白百合女子大学（うち1名は模擬面接実習）	2名
	東北福祉大学	5名
	東北文化学園大学	2名
	岩手県立大学	2名
	日本福祉教育専門学校	1名
精神看護学実習	東北大学	37名
	宮城大学	21名
	仙台青葉学院短期大学	8名
介護等体験実習	宮城学院女子大学	1名
	仙台白百合女子大学	1名
	同志社大学	1名
計		81名

[第1号議案説明附属資料]

上記のほか、東北文化学園大学で学生に対して講義を行った。(12月)

(7) 就労アセスメントの実施

依頼がなく、実施しなかった。

(8) 仙台市の協議会への参加

泉区障害者自立支援協議会ネットワーク会議（よめごと会議）に5回参加した。

(9) 利用者増のためのPRの強化

広報誌を10月に発行した。行政関係(23件)、病院・訪問看護関係(62件)、相談支援事業所(19件)、障害福祉サービス事業所(56件)、教育機関(15件)、生産活動・就労関係(39件)、役員・関係者(22件)へ発送した。

また、ホームページのブログを月1回更新し、活動内容を紹介した。

(10) 地域における取組

事業所近隣の地域医療福祉連携会議（ていーたいむパロス）の世話人会へ加入し、全体会の運営のほか地域課題解決に向けた医療、福祉等の関係者の交流が促進されるよう取り組んだ。

高森地域包括支援センターと連携し、高森地域の集まりに参加し、講演会（事業所紹介、高齢者うつについての講話とラフターヨガ体験）を実施した。また、他団体における女性支援のイベント参加に関する事前折衝を行った。

2. 事業実績

(令和5年3月31日現在)

表-1. 利用状況月別推移

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開設日数(日)	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243
当月在籍者数(定員6名)	2	2	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	—
利用者実人数	2	2	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	—
新規利用者数	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
退所者数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
延べ利用者数	38	36	45	63	64	56	56	55	50	52	50	61	626
1日平均利用者数	1.9	1.9	2.0	3.2	2.9	2.8	2.8	2.8	2.5	2.7	2.6	2.8	2.6
利用率(%)	32	32	34	53	48	47	47	46	42	46	44	46	43

※利用率: 延べ利用者数 ÷ (定員 × 開所日数) × 100

※2 中期経営計画目標: 960人／年

※3 中期経営計画目標: 4人

表-2. 新規利用者の紹介元

(人)

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	相談支援事業所	福祉サービス事業所	その他	計
男性	1	0	0	0	0	0	0	1
女性	0	1	0	0	0	0	0	1
計	0	1	0	0	0	0	0	2

表-3. 退所者転帰

(人)

	就労	他事業所	在宅	入院	転居	その他	計
男性	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	0	0	0	0	1	1
計	0	0	0	0	0	1	1

表-4. 利用者居住地区分

(人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	市外	計
男性	0	0	0	0	3	0	3
女性	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	3	0	3

表-5. 平均年齢

(歳)

	男性	女性	全体
平均	31.3	—	31.3

表-6. 「主たる精神障害」による区分

(人)

診断名	男性	女性	計
統合失調症	1	0	1
知的障害	2	0	2
計	3	0	3

表-7. 障害者手帳取得状況

(人)

	人数	備考
精神障害者保健福祉手帳1級	0	
精神障害者保健福祉手帳2級	1	
精神障害者保健福祉手帳3級	1	
その他の	1	療育手帳B
計	3	

令和4年度 就労継続支援B型事業所 パルいづみ事業報告

一人ひとりの利用者の目標達成に向け、状況や希望を把握し、個々に合わせたサービス提供に努めた。工賃については、新規の下請け作業を受注することができたが、令和3年度に比べて単価の高い作業依頼が減ったことが影響し、昨年度実績及び目標を下回る結果となった。

1. 事業内容

(1) 生産活動

工賃向上への取組み（中期経営計画目標平均工賃月額 12,000円以上）

(年間売上合計)

年間売上合計 3,074,862円（前年度比 81.7%） (令和3年度実績 3,765,351円)	下請作業事業 自主製品 (アクセサリー事業)	2,600,463円 474,399円
--	------------------------------	------------------------

(平均工賃)

平均工賃月額 時給額	9,825円（前年度比 76.6%） 355円（前年度比 79.8%）	令和3年度実績 令和3年度実績	12,829円 445円
---------------	--	--------------------	-----------------

① 下請作業

(事業所内)

- ・アンケート集計・データ入力・AIによる文字起こしの校正
- ・箱折
- ・企業広告等の封入・封かん
- ・漢方茶の計量及び袋詰め
- ・医療用ごみ袋封入
- ・梱包

(外部作業)

- ・企業内での業務

② 自主製品制作

- ・ビーズ製品（アクセサリー、ストラップ等）
- ・手芸製品（アクセサリー）

自主製品については、仙台駅構内での売店、福祉ショップ等の4か所の委託先での販売を継続した。また、県庁職員や仙台市職員を対象とした通販の企画に参加し、自主製品の販売を行った。

販売会については、以下のとおり行った。

販売会名（実施時期）
区役所販売会：泉区役所（5～6月、8月、10～3月）計9回
ナイスハートバザール inせんだい（3月）

(2) 相談支援

①定期面接

6ヶ月ごとの個別支援計画の見直しに係る面接実施のほかに、1か月に1回程度の定期面接を実施し、事業所利用状況や生活状況の確認、バイタルチェックなどを実施した。

②随時面接

利用者の申し出による面接では、課題の整理を行い、生活状況の改善や不安の軽減に向けた助言等を行った。また、職員からの声掛けにより面接を実施し、課題解決や目標達成に向けた働きかけを行った。

(3) 就労支援

①就労移行支援事業との連携（就労プログラムへの参加等）

本人の就労への意欲や目標に応じ、ステップアップの方法の一つとして利用者に就労移行支援事業の情報提供を行った。

②利用者の希望に沿った支援の実施

定期的な面接場面等を通じて、利用者の意向を適切に把握するように努め、希望に沿った支援を提供できるよう努めた。また、就労した退所者へも本人の状態に合わせて電話連絡や面談を行い、継続できるように努めた。

(4) 重度の障害や精神障害を持つ高齢者への支援

①作業環境の整備

個々の活動に合わせて作業に必要な物の配置を行ったほか、移動しやすいよう作業場所を配慮した。

②本人の体力や障害程度に合わせた作業方法の検討及び指導

一人ひとりの状態に応じて作業内容、作業方法について検討し、指導を進めた。

③関係機関との連携

家族や関係機関と必要に応じて連絡調整等を進め、支援を進めた。

(5) 健康管理

①各区で実施する各種健診の情報提供

仙台市市民健診の受診勧奨を行い、受診した利用者からの結果報告を受け、必要な助言・指導を行った。

②軽運動（ラジオ体操・ストレッチ）の実施

毎日、朝のミーティング開始前の深呼吸及びストレッチ、作業開始前のラジオ体操と終了時のストレッチを実施した。作業時間中盤の体操も継続しており、身体を動かす機会づくりに意識的に取り組んでいる。

③健康維持に向けた助言等の支援の実施

季節や時期に応じて、ミーティングや個別対応により健康管理や維持に向けた働きかけを行った。

④定期的な体重・血圧・脈の測定（自己管理意識の向上）

利用者との定期面接（1か月に1回程度）の機会に測定し、働きかけを行った。

(6) 余暇支援（行事・レクリエーション）

①利用者同士の交流を目的とした季節ごとの行事実施

②食事会実施

ランチ	5月	ビビンバ	10月	栗おこわ、はつと汁
	6月	生姜焼き定食	11月	おでん、わかめご飯
	8月	カレーライス	12月	ビーフストロガノフ
	9月	芋煮、炊き込みご飯	2月	あんかけや焼きそば
レクリエーション	4月	ゲーム、食事会	10月	バス旅行（登米方面）
	7月	映画鑑賞、食事会	1月	ゲーム、お餅メニュー

(7) 実習生の受入れ・指導等

実習種別	学校名	人数
精神保健福祉援助実習	仙台白百合女子大学（うち1名は模擬面接実習）	2名
	東北福祉大学	5名
	東北文化学園大学	2名
	岩手県立大学	2名
	日本福祉教育専門学校	1名
精神看護学実習	東北大学	37名
	宮城大学	21名
	仙台青葉学院短期大学	8名
介護等体験実習	宮城学院女子大学	1名
	仙台白百合女子大学	1名
	同志社大学	1名
計		81名

上記のほか、東北文化学園大学で学生に対して講義を行った。（12月）

(8) 仙台市の協議会への参加

泉区障害者自立支援協議会ネットワーク会議（よめごと会議）に5回参加した。

(9) 利用者増のためのPRの強化

広報誌を10月に発行した。行政関係（23件）、病院・訪問看護関係（62件）、相談支援事業所（19件）、障害福祉サービス事業所（56件）、教育機関（15件）、生産活動・就労関係（39件）、役員・関係者（22件）へ発送した。

また、ホームページのブログを月1回更新し、活動内容を紹介した。

(10) 地域における取組

事業所近隣の地域医療福祉連携会議（ていたいむパロス）の世話人会へ加入し、全体会の運営のほか地域課題解決に向けた医療、福祉等の関係者の交流が促進されるよう取り組んだ。

高森地域包括支援センターと連携し、高森地域の集まりに参加し、講演会（事業所紹介、高齢

[第1号議案説明附属資料]

者うつについての講話とラフターヨガ体験)を実施した。また、他団体における女性支援のイベント参加に関する事前折衝を行った。

[第1号議案説明附屬資料]

2. 事業実績

(令和5年3月31日現在)

表-1. 利用状況月別推移

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開設日数(日)	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243
当月在籍者数(定員24名)	24	24	24	24	24	23	22	22	23	23	23	21	—
利用者実人数	22	21	22	22	22	24	22	22	23	23	23	22	—
新規利用者数	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
退所者数	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1	1	6
延べ利用者数	207	209	252	223	226	197	239	225	198	213	218	243	2650
1日平均利用者数	10.4	11.0	11.5	11.2	10.3	9.9	12.0	11.3	9.9	11.2	11.5	11.0	10.9
利用率(%)	43	46	48	46	43	39	50	47	41	47	48	46	45

※利用率: 延べ利用者数 ÷ (定員 × 開所日数) × 100

※2 中期経営計画目標: 3,840人／年

※3 中期経営計画目標: 16人

表-2. 新規利用者の紹介元

(人)

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	相談支援事業所	福祉サービス事業所	その他	計
男性	0	0	0	0	1	0	0	1
女性	0	1	0	1	0	0	0	2
計	0	1	0	1	1	0	0	3

表-3. 退所者転帰

(人)

	就労	他事業所	在宅	入院	転居	その他	計
男性	0	0	1	0	0	0	1
女性	0	3	1	0	0	1	5
計	0	3	2	0	0	1	6

表-4. 利用者居住地区分

(人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	市外	計
男性	2	0	0	1	8	0	11
女性	2	1	0	0	7	0	10
計	4	1	0	1	15	0	21

表-5. 平均年齢

(歳)

	男性	女性	全体
平均	49.0	45	47.1

表-6. 「主たる精神障害」による区分

(人)

診断名	男性	女性	計
統合失調症	4	5	9
双極性障害	0	1	1
うつ病	2	1	3
てんかん	1	0	1
パニック障害	1	0	1
適応障害	0	1	1
情緒不安定型パーソナリティ障害	0	1	1
高次脳機能障害	1	0	1
知的障害	2	1	3
計	11	10	21

表-7. 障害者手帳取得状況

(人)

	人数	備考
精神障害者保健福祉手帳1級	1	
精神障害者保健福祉手帳2級	12	・うち療育手帳B 1
精神障害者保健福祉手帳3級	2	
その他の	6	・うち身体障害者手帳1級、療育手帳B 1 ・うち療育手帳B 3 ・身体障害6級 1 ・未所持 1
計	21	

令和4年度 就労継続支援B型事業所 パル三居沢事業報告

利用者一人ひとりが安心して通所し、自らの目標に向けて活動できるよう個別支援計画を丁寧に見直し、きめ細やかな支援に努め、魅力ある事業所作りを目指した。

作業に関しては、箱折作業と封入作業について新たに2社と契約した他、補助金制度を活用し作業用パソコンを導入、またみやぎセルフ協働受注センターで行っているBPOを活用した工賃向上モデル事業へ参加し、新たな生産活動の機会確保に向け取り組んだ。

さらに利用者獲得及び利用率向上のため、送迎を実施した。

1 事業内容

(1) 生産活動

- ・工賃向上への取り組み

(年間売上合計)

年間売上合計 2,380,464円（前年度比 121%） (令和3年度実績 1972,438円)	下請作業	1,615,614円
	外部作業（清掃、除草）	652,800円
	自主製品（キャンドル、手芸品）	112,050円

(平均工賃)

平均工賃月額 時給額	11,289円（前年度比 127%） 410円（前年度比 139%）	令和3年度実績 令和3年度実績	8,906円 294円
---------------	---------------------------------------	--------------------	----------------

作業種目ごとに利用者の障害特性を活かした効率的な作業工程・手法を提案し、多くの利用者が参加できる環境を整えた。また関係機関や受注先との連携を密にし、安定した受注量の確保に努めた結果、年間売上金額及び平均工賃月額が昨年度を上回ることができた。

①下請作業

- ・医療用コルセット組立て
- ・企業広告等の封入・封緘
- ・箱折
- ・養生材の回収・メンテナンス

②外部作業

- ・清掃作業
- ・除草作業
- ・刈り草収集作業

③自主製品制作

- ・手芸製品（アクリルたわし、帽子等）
- ・オリジナルキャンドル

(2) 相談支援

利用者や家族からの生活面での相談など個々の相談に対しては真摯に向き合い、不安解消等に向けた適切な助言・指導を行った。

①定期面接 6か月以内の個別支援計画の見直しに向けた定期面談を適宜実施した。

②随時面接 必要に応じて実施した。

(3) 就労支援

将来的に一般就労を希望する利用者に対し、面接場面を通し本人の意向の把握に努め、希望に沿った支援が提供できるよう助言や情報提供に努めた。

(4) 重度の障害のある者や高齢精神障害者への支援

重度の障害のある者や高齢精神障害者を積極的に受け入れ、社会参加の促進を図った。

①利用者の多くが作業参加できる環境を整えた。

②個々の利用者の体力や障害特性を踏まえた作業工程・手法を提案した。

③関係機関との連携を深め支援の質を高めた。

(5) 健康管理

利用者の健康増進、維持に努めた。

①各区で実施する各種検診の情報を提供した。

②ラジオ体操を実施した。

③COVID-19予防、風邪予防をテーマとした健康講話を10月15日に実施し、当日は利用者10名が参加した。

④健康に関する自己管理意識の動機づけを行った。(体重や血圧の測定等)

(6) 余暇支援(行事・レクリエーション)

利用者間や職員との交流など事業所内全体の親睦を深めることを目的に、利用者の希望を反映させた季節の行事やレクリエーションを企画した。

4月	お花見、自己紹介会	10月	バス旅行（蔵王方面）
5月	DVD鑑賞	11月	芋煮会
6月	食事会、ゲーム（卓球・トランプ・将棋）	12月	クリスマス会
7月	食事会（土用丑の日）、クイズ	2月	食事会（コストコ製品を食べてみよう会）、スライドショー
8月	食事会（冷やし中華）、ゲーム	3月	食事会（ちらし寿司）、一年の振り返り会
9月	バーベキュー		

(7) 広報活動

法人・事業所の広報誌、ホームページ、ブログ等の活用や訪問活動を拡充し、事業内容等を広く紹介することで、新たな利用者の受入れや新規受託作業の獲得に努めた。

特に、ホームページ内のブログの更新は、月に1回の頻度で行い、作業活動のほか販売会や

[第1号議案説明附属資料]

レクリエーションの内容等を積極的に紹介した。

(8) 実習生の受け入れ・指導

福祉専門職、看護師等の養成に協力するため、COVID-19 予防策について学校側とも協議して取り組み、実習生を受け入れ指導した。

実習種別	学校名	人數
精神保健福祉援助実習	東北文化学園大学	2名
	東北福祉大学	3名
精神看護学実習	東北大	29名
	仙台青葉学院短期大学	12名
	宮城大学	25名
		71名

2.事業実績

表-1. 利用状況月別推移

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開設日数(日)	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243
当月在籍者数(定員20名)	19	18	16	16	16	16	17	17	17	17	17	17	—
利用者実人数	17	16	16	15	16	16	17	16	16	17	17	16	—
新規利用者数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
退所者数	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
延べ利用者数	149	178	170	154	172	171	199	187	169	147	170	186	2052
1日平均利用者数	7.5	9.4	7.7	7.7	7.8	8.6	10.0	9.4	8.5	7.7	8.9	8.5	8.4
利用率(%)	37	47	39	39	39	43	50	47	42	39	45	42	42

※利用率: 延べ利用者数 ÷ (定員 × 開所日数) × 100

※2中期経営計画目標:3,840人／年

※3中期経営計画目標:16人

表-2. 新規利用者の紹介元

(人)

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	相談支援事業所	福祉サービス事業所	その他	計
男性	1	0	0	0	1	0	0	2
女性	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	0	0	1	0	0	2

表-3. 退所者転帰

(人)

	就労	他事業所	在宅	入院	転居	その他	計
男性	0	0	0	0	0	1	1
女性	0	0	3	0	0	0	3
計	0	0	3	0	0	1	4

表-4. 利用者居住地区分

(人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	市外	計
男性	9	0	0	2	0	0	11
女性	4	0	1	1	0	0	6
計	13	0	1	3	0	0	17

表-5. 平均年齢

(歳)

	男性	女性	全体
平均	55.6	46.2	50.9

表-6. 「主たる精神障害」による区分

(人)

診断名	男性	女性	計
統合失調症	7	1	8
うつ病	1	1	2
強迫性障害	1	1	2
知的障害	1	0	1
不安障害	0	1	1
自閉症	1	0	1
広汎性発達障害	0	2	2
計	11	6	17

表-7. 障害者手帳取得状況

	人数	備考
精神障害者保健福祉手帳1級	2	うち療育手帳B1
精神障害者保健福祉手帳2級	14	うち療育手帳B3
精神障害者保健福祉手帳3級	1	
計	17	

令和4年度 障害者相談支援事業所 ほっとすペーす事業報告

障害者相談支援事業では、精神科病院に入院している方への退院支援や、多領域にわたる複雑な生活課題がある障害者や家族等に対する支援を行政機関や医療機関等と連携しながら行った。延べ利用者数は、電話相談や面接相談等も含めて目標の4,000件に対して5,914件と上回った。

また、障害者への支援体制の整備を図ることを目的に青葉区障害者自立支援協議会（サポネットあおば）に参画し、地域展開チームの運営を担った他、地域課題の取組等について検討した。

計画相談支援では、障害福祉サービスを利用する方々にサービス等利用計画の作成や調整を行い、地域生活を支援した。

I 事業内容

1. 障害者相談支援事業（委託相談支援）

(1) 障害者相談支援業務

令和4年度は、239名の利用者が委託相談支援を利用しており、うち34名が新規利用者となっている。

支援内容としては、243回の訪問、49回の面接、78回の同行支援を実施。また、個別支援会議を711回、関係機関との連絡調整を1,511回、その他電話相談等の支援と合わせると延べ5,914件の支援を行った。

（中期経営計画目標：委託相談支援事業延べ利用者数4,000件）

① 福祉サービスの利用援助事業

仙台市権利擁護センター（まもりーぶ仙台）や成年後見制度、移動支援などの利用に関する情報提供や助言、各種手続きに関する助言や同行、ホームヘルパーによる居宅介護、短期入所等の利用に係る調整や援助を行った。

また障害福祉サービスから介護保険移行に伴う調整を地域包括支援センターと連携して行い、4名の利用者が介護保険に移行した。

② 社会資源を活用するための支援事業

利用者の希望を確認し、就労移行支援事業所や就労継続支援事業所、自立訓練事業所、共同生活援助事業所等の紹介や見学の同行等を行った。また、住居探しのための情報提供や同行も行った。

③ 社会生活力を高めるための支援事業

関係機関や障害福祉サービス事業所等とも連携しながら、健康、服薬、金銭管理、家事、趣味や余暇活動の充実など自立した社会生活を営むことができるよう必要な支援を行った。

④ 専門機関の紹介事業

利用者のニーズを把握した上で、各種専門機関の紹介を行った。また、発達障害や知的障害のある方、病識が不十分な方等について、専門機関と連携しながら支援を行った。

⑤ 障害者ケアマネジメントに関する事業

各区保健福祉センター等の関係機関とも連携しながら、利用者の希望を確認し、それぞれが持

[第1号議案説明附属資料]

っている力を活かせるよう支援を行った。また本人との信頼関係の構築を図りながら、家族の相談にも応じた。

また、入院中の利用者の退院へむけた支援として、50回の訪問を実施した。

(中期経営計画目標：入院から退院に向けた支援件数60件)

⑥ 地域住民等に対する普及啓発に関する事業

葉山地域包括支援センター介護支援専門員研修会、若林区相談支援事業所等連絡会・地域包括支援センター連絡会合同研修に講師として参加。障害福祉サービスの基本的な知識とサービス利用の流れについての説明、障害・高齢分野の協働事例報告を行った。

更に、月1回程度ブログを更新し活動内容の紹介を行った他、広報誌「ほっとすペーす便り」を下記の通り発行した。

区分	部 数		配 布 先
	7月	1月	
利用者	131	124	
関係機関	67	66	仙台市健康福祉局関係部署、精神科病院及びクリニック、宮城県及び仙台市社会福祉協議会、障害福祉サービス事業所、障害者相談支援事業所、法人役員など
計	198	190	

⑦ その他生活支援に関すること

福祉サービスに関する支援等に限らず、居室の掃除等、利用者の生活全般における困りごとに対して支援を行った。

⑧ 障害者同士が自主的に交流できる場や地域住民との交流を図るための場を提供する事業

誰もが自由に利用できるフリースペースとしてサロンの場を提供し、必要に応じて来所者の個別相談を実施した。

(2) 障害者虐待の防止に係る業務

利用者支援にあたり、関係機関と連携しながら虐待の未然防止や早期発見の観点をもって支援を行った。また障害者虐待防止・権利擁護研修に参加し意識向上に努めた。

(3) 障害を理由とする差別の解消に係る業務

差別に関する相談は受けていないが、関係機関と連携しながら障害を理由とする差別の解消を図れるよう利用者支援を行った。

2. 指定特定相談支援事業（計画相談支援）

障害福祉サービスの利用を支援するために95名と計画相談の契約を締結しており、84件のサービス等利用計画の作成、サービス担当者会議の開催、モニタリングなど、個々の利用者の状態に応じた継続的な支援を行った。

(中期経営計画目標：計画相談利用者実人数100名)

計画相談利用者に対し、453回の訪問、23回の面接、42回の同行支援を実施。アセスメン

トや障害福祉サービスの利用支援を丁寧に進めた。また、個別支援会議を325回、関係機関との連絡調整を1,979回行い、障害福祉サービス事業所や行政、医療機関等と連携を図った。

3. 指定一般相談支援事業（地域相談支援）

(1) 地域移行支援

支援対象者がおらず、実施していない。

(2) 地域定着支援

支援対象者がおらず、実施していない。

4. 指定障害児相談支援事業

支援対象者がおらず、実施していない。

5. 仙台市の協議会等への参加

(1) 青葉区障害者自立支援協議会

障害者への支援体制整備に向けて、青葉区障害者自立支援協議会（サポネットあおば）の事務局として運営会議に12回参加した。また、サポネットあおばの会議体として地域展開チームを担当した他、相談支援事業所等連絡会、実務者ネットワーク会議（サポネットあおばのつどい）、青葉区高齢者障害者地域会議へ参加した。

○地域展開チーム：国見地域のつどいの場を作ることを目的に、貝ヶ森中央公園にて「貝ヶ森だヨ！全員集合 ふらっと寄りみち軽体操」を年3回実施した。また、10月には貝ヶ森市民センターで開催された「貝ヶ森地区文化祭」に出展し、障害福祉やサポネットあおばに関する普及啓発に努めた。さらに宮城総合支所管内での地域展開を検討するために、関係機関へのヒアリングを3回実施した。

○相談支援事業所等連絡会：青葉区内の指定特定相談支援事業所、委託相談支援事業所、地域生活支援拠点、青葉区障害高齢課、宮城総合支所保健福祉課・障害高齢課、基幹相談支援センターが参加し、相談支援に有効な話題提供、重点的に関わる対象者のケースレビュー及び事例検討を11回実施し、支援力の向上に努めた。

○実務者ネットワーク会議（サポネットあおばのつどい）：青葉区内の関係機関のネットワークの緊密化を促進するために、コロナ禍の支援や多職種連携をテーマにオンラインと対面で2回実施した。

○青葉区高齢者障害者地域会議：高齢分野と障害分野の支援機関の連携及び地域の支え合いの体制作りを目的に、地域での取り組みの共有と検討をオンラインと対面のハイブリット形式で1回実施した。

(2) 仙台市自立支援協議会 地域部会

部会委員として、地域部会（1回）に参加し、仙台市各区で展開されている多機関協働による効果的な実践の汎化と進展について、住まいの問題にかかる支援体制のあり方について協議した。

(3) 相談支援事業所連携会議

旧精神の委託相談支援事業所の事業運営や自立支援協議会の活動等について、情報共有と意見交換を2回行った。

